

第 66 回日本卵子学会学術集会

O-18

広島 2025.5.31-6.1

iDA Score ver.2 に影響を与える因子の検討：3 日目胚と胚盤胞の比較解析

Investigation of factors influencing iDA Score ver.2.0: Coparative analysis of Day3 embryos and blastosysts

佐藤学^{1,2}、中岡義晴¹、森本義晴²

¹IVF なんばクリニック、²HORAC グランフロント大阪クリニック

(目的)

iDA Score ver.2 (iDA2) は胚の形態学および発育動態の評価指標である。本研究では、Day 3 (D3) 胚および胚盤胞において、iDA2 に影響を与える因子を特定し、その影響力を検討した。

(方法)

2024 年 1 月～9 月に採卵された D3 胚 1157 個および胚盤胞 2277 個を EmbryoScope + で観察を行い、D3 または Day5/6 (D5/D6) にて iDA2 を取得した。(検討 1) D3 胚で、目的変数を iDA2、説明変数を分割異常 (第一・第二卵割異常)、D3 グレード (G1/G2 か否か)、細胞数 (8 細胞以上か否か)、妻年齢、授精方法 (IVF/ICSI) とし、順序ロジスティック回帰分析を行った。(検討 2) TE グレード (A/B か否か) および胚齢 (D5/D6) も追加した。統計解析には EZR を使用した。

(結果)

検討 1: 第一および第二卵割異常はそれぞれ強い負の因子を示した (OR: 0.04, CI: 0.03–0.05, $P < 0.01$ 、OR: 0.18, CI: 0.13–0.24, $P < 0.01$)。一方、細胞数は強い正の因子 (OR: 6.27, CI: 4.9–7.9, $P < 0.01$)、D3 グレードも正の関連性が認められた (OR: 1.29, CI: 1.02–1.63, $P < 0.01$)。妻年齢は関係性がなかった。検討 2: 胚齢 (OR: 51.80, CI: 38.60–70.10, $P < 0.01$) および TE グレード (OR: 9.77, CI: 7.75–12.40, $P < 0.01$) が正の因子で、第一卵割異常および第二卵割異常は負の因子だった。授精方法および妻年齢は関係性がなかった。

(結論)

発育段階で iDA2 に影響する因子が異なった。D3 胚では第一卵割異常が最も強い負の因子であり、一方、胚盤胞では胚齢と TE グレードが主要な正の因子であった。また、従来の胚評価指標が iDA2 にも反映されていることから、その有効性が確認された。